### 教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

【目己評価1-1】専	て致良の問	正直认仇									
				専任者	<b></b>						
学部 ・学科の名 称	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理 学奉仕ま たは作業 療法士 数	助手	非常勤教	専任教員 一人の在籍 数 数	備考
医学科学部 東京理学療法学科	4人	6 人	3 人	1 人	14 人	8人	14 人	0 人	20人	25.3 人	
計	4 人	6 人	3 人	1 人	14 人	8人	14人	0 人	20人	_	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

	てはまる自己計画側にしてうりてくたさい。	
自己評価	評価内容	判定
0	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当 している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が 担当している。	2
	上記以外である	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
0	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

#### 【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野				担当教員	
がまだ。 (基礎・ 専門基礎 ・専門	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	氏名	職名 (専任・兼 任
		倫理学B	15	一色 哲	兼担
		心理学A	15	仁木 千春	兼任

1		心理学B	15	仁木 千春	兼任
		哲学	15	榊原 健太郎	
		<u>ロナ</u> 歴史学 A	15	榊原 健太郎 他	兼担
		歴史学B	15	久野 雅司	兼任
		法学	15	塚林・美弥子	
		日本国憲法	15	塚林、美弥子	
		日本国恩伍 	15		兼任
				高橋陽子	
		社会学	15	酒井 信一郎	兼任 ————————————————————————————————————
		文学A	15	吉田和久	兼担 ————————————————————————————————————
		文学B	15	吉田 和久	兼担 ————————————————————————————————————
		文化史A	15	一色 哲	兼担
	社	数学 I ————————————————————————————————————	15	松本 ディオゴけんじ	兼担
	社人 会間 会間	物理学 I ————————————————————————————————————	15	仲山 英之	兼任
基礎分野	のとお理生の	化学 I	15	石田 良仁	兼担 ———
	社会的思考の基盤 社会的思考の基盤	生物学 I	15	小出 哲也	兼担 ———
		英語 I	15	菱山 湧人 他	兼任
		英語Ⅱ	15	菱山 湧人 他	兼任
		教養英語 A	15	小堀 馨子	兼担
		教養英語B	15	小堀 馨子	兼担
		健康体育A	15	小林 亮太 他	兼担
		健康体育B	15	高橋 敏彦 他	兼任
		健康と生活	15	津田彰他	兼担
		情報 I	15	内藤 隆宏 他	兼担
		情報Ⅱ	15	内藤 隆宏 他	兼担
		統計学	15	松本 ディオゴけんじ	兼担
		キャリアデザイン I	15	高野 雅巳	兼任
		実践日本語会話法	15	澤則子	兼任
		時事問題解説	15	本石 修二	兼任
		基礎ゼミ	15	藤田 博曉 他	専任
		身体構造学	30	齊藤 百合花	兼担
		身体構造学実習	23	齊藤 百合花 他	専任
		身体機能学	30	廣瀬 昇 他	専任
	及び心身の発達人体の構造と機能	身体機能学実習	23	廣瀬 昇 他	専任
	心構 身造	運動学 I	15	芹田 透 他	————— 専任
	の発機		15	芹田 透 他	——————— 専任
	達能	運動生理学	15	中山 彰博	—————— 専任
		運動学実習	23	藤田 博暁 他	専任
		 人間発達学	15	眞保 実	専任
		 病理学	8	高田 雄三	兼担
		 病態運動学	8	奥田 裕 他	 専任
		一般臨床医学	15	古川 雄祐	
		臨床心理学	8	東海林 則子	
		薬理学概論	8	齊藤 百合花	

専	I				Ī
明 基 <b>礎</b>		整形外科学	15	藤本 和幸 ————————————————————————————————————	兼任
	疾 及病 び	神経科学 ————————————————————————————————————	15	豊島 裕子 	兼任
科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	臨床神経学 ————————————————————————————————————	15	豊島・裕子	兼任
	過の発	精神医学	8	関口 剛	兼任
	の促立	小児科学	8	眞保 実 他	専任
	進ち	スポーツ医学	15	村上憲治他	専任
		リハビリテーション医学	8	藤田 博暁	専任
		公衆衛生学	8	近藤 陽平	兼任
		バイオメカニクス	8	小山 優美子	専任
		リハビリテーション栄養学	8	廣瀬 昇 他	専任
		救急医療実践論	15	河又 典文	兼任
		臨床検査学概論	8	髙田 雄三	兼担
	保 健	リハビリテーション概論	8	藤田 博暁	専任
	テー 医 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	地域包括ケアシステム論	15	藤田 博暁 他	専任
	テーションの理念健医療福祉とリハビ	チーム医療実践論	8	眞保 実 他	専任
	の理り	応用文化人類学	15	令和6年度不開講	
	<del></del>	動物リハビリテーション	15	八代 小夜子	兼任
	基	理学療法概論	8	中山 彰博	専任
	礎理 学療法 学	基礎理学療法学	15	豊田 輝 他	専任
		医療統計学	8	松葉 潤治	専任
		理学療法研究法	8	松葉 潤治 他	専任
	理学療法管理学	理学療法教育学・管理学	15	豊田 輝 他	専任
		臨床動作分析法	8	豊田 輝	専任
	理 学	画像評価法	8	廣瀬 昇 他	専任
	療 法 評	理学療法評価学	15	松葉 潤治 他	専任
	而 一 学	理学療法評価学実習 I	23	松葉 潤治 他	専任
		理学療法評価学実習 Ⅱ	23	松葉 潤治 他	専任
		運動療法学総論	15	芹田 透 他	専任
		運動療法学実習	23	芹田 透 他	専任
		物理療法学・実習	23	中山 彰博 他	専任
		補装具学	15	豊田 輝	専任
		日常生活活動学	15	奥田 裕 他	専任
		日常生活活動学実習	23	奥田 裕 他	専任
		スポーツ障害理学療法学	15	村上 憲治 他	専任
	理	運動器障害理学療法学	30	村上 憲治 他	専任
専	学 療	神経障害理学療法学	30	村上 憲治 他	専任
門	法 治 療	内部障害理学療法学	30	廣瀬 昇 他	専任
科 目 目	学	高齢者理学療法学	8	潮見 泰蔵	専任
		小児理学療法学	15	眞保 実	専任
		プロフェッショナルスキル I	15	眞保 実 他	専任
		プロフェッショナルスキルⅡ	23	奥田 裕 他	専任
		プロフェッショナルスキル皿	23	塚田 絵里子 他	専任
			l l		

		ウィメンズヘルス	8	塚田 絵里子 他	専任
		マニュアルセラピー	8	中山 彰博	専任
		地域理学療法学	15	奥田 裕 他	専任
	地域理学療法学	生活環境学	8	金子 千香	専任
	地域连子原丛子	障害予防特論	8	藤田 博暁 他	専任
		国際医療活動	8	潮見 泰蔵 他	専任
	臨床実習	臨床実習I	23	藤田 博暁 他	専任
		臨床実習Ⅱ	23	塚田 絵里子 他	専任
		臨床実習Ⅲ	90	潮見 泰藏 他	専任
		臨床実習Ⅳ	360	松葉 潤治 他	専任
_		臨床実習Ⅴ	23	松葉 潤治 他	専任
	その他	理学療法ゼミ	90	松葉 潤治 他	専任
	(C 07)他	卒業研究	45	松葉 潤治 他	専任

### 【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

## 【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記し ている。または、大半の 授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記してい る。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

# 【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

#### 【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に $\bigcirc$ をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
0	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

### ●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法関連施設における,理学療法士および	1 年	理学療法概論	1年前期
その他の専門職種の役割・業務の見学	1 年 臨床実習 I		1年後期

		理学療法評価学	年後期	
		理学療法評価学実習I	2年前期	
			2年後期	
理学療法の各種評価方法の見学と実践	2年・3年		2年後期	
		画像評価学	2年後期	
		臨床実習Ⅱ	2年後期	
		臨床実習Ⅲ	3年後期	
		運動療法学総論	2年前期	
		運動療法学実習	2年後期	
		物理療法学・実習	2年前期	
		補装具学	2年前期	
		日常生活活動学 2年	2年前期	
			2年後期	
		スポーツ障害理学療法学	3年後期	
	運動器障害理学療法学	3年通年		
	2 / 2 / 2	神経障害理学療法学	3年通年 3年通年	
理学療法の治療の見学と実践	2 年 · 3年	理学療法評価学実習 II 2年後  臨床動作分析法 2年後  画像評価学 2年後  臨床実習 II 2年後  臨床実習 II 3年後  臨床実習 II 3年後  臨床実習 II 3年後  運動療法学総論 2年前  運動療法学実習 2年後  物理療法学・実習 2年前  相装具学 2年前  日常生活活動学 2年前  日常生活活動学 3年後  スポーツ障害理学療法学 3年後  運動器障害理学療法学 3年通  内部障害理学療法学 3年通  内部障害理学療法学 3年通  内部障害理学療法学 3年通  プロフェッショナルスキル II 3年前  プロフェッショナルスキル II 3年後  プロフェッショナルスキル II 3年後  魔床実習 II 3年後  臨床実習 IV 4年後  チーム医療実践論 2年後		3年通年
	建学療法評価学実習 II     2年4       臨床動作分析法     2年4       画像評価学     2年4       臨床実習 II     2年4       臨床実習 II     3年4       運動療法学総論     2年1       運動療法学表習     2年4       物理療法学、実習     2年1       相装具学     2年1       日常生活活動学     2年1       日常生活活動学実習     2年4       スポーツ障害理学療法学     3年3       連動器障害理学療法学     3年3       内部障害理学療法学     3年4       内部障害理学療法学     3年4       プロフェッショナルスキル II     3年7       プロフェッショナルスキル II     3年4       「プロフェッショナルスキル II     3年4       「プロフェッショナルスキル III     3年4       「協床実習 III     3年4       「協床実習 III     4年4       「日本4年4     4年4       「日本4年4		4年後期	
		3年前期		
		プロフェッショナルスキルI	3年前期	
		プロフェッショナルスキルⅡ	3年後期	
		プロフェッショナルスキルⅢ	3年後期	
		臨床実習Ⅲ	3年後期	
		臨床実習IV	4年前期	
	ļ	臨床実習V	4年後期	
作業療法の評価・治療・管理業務等の 総合的な	2/5 2/5	チーム医療実践論	2年後期	
実践	2 年 • 3年	理学療法教育学・管理学	3年後期	

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄にoをつけてください。

	TO COST OF MINIOR CONTROL OF THE PROPERTY OF T	
自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
0	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に0をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄にoをつけてください。

【日亡計画 3-3】 =	1 C はよる日 L 計	
自己評価	評価内容	判定
0	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2

臨床実習におけるハラスメント防止のための体制	がなく、対応も不十分である。 1
------------------------	------------------

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

基本情報・自己占給・評価休制記入してください。

●基本情報:自己点検・評価体制記入し	てください。
自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名(委員長)	冲永 莊八
組織の開催頻度	年2回開催
	・国家試験合格率の向上
	・学習環境の整備
	・配慮を必要とする学生についての支援の強化・拡充
	・学習習慣の無い学生に学習習慣定着の取り組み
組織の取り組み	・生活習慣の身についていない学生に対する学修支援の拡充
/1977年44/イン・4/イン・1977・ノー	・履修科目の単位修得を確実に行うための支援を充実
	・学生からの意見を授業、その他学修支援の取組みに活用
	・多様な学生が、それぞれに成長を自覚し、満足感を持って卒業できることを目指す
	・教養教育に対する理解の増進と履修指導体制の充実
	・高大接続の課題としての授業への適応支援と有効な支援方法の検討 ・e-ラーニングを活用した自主学習の 仕組みの整備
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 https://www.ntu.ac.jp/tust/upload/R5hyoukasho_yousi.pdf

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄にoをつけてください。

_ 【日 C 許 伽 4-2】 =	「てはまる日に計価欄に0をつけてください。	
自己評価	評価内容	判定
0	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではな い。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

## 【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検評価においては、概ね基準を満たしていると判断される。 今後も引き続き、臨床実習の円滑な実施および調査、臨床実習施設との継続的な協議、指導者会議・研修会の開催等を通じて自己研鑽に努め、理学 療法士養成に関する教育活動の更なる質の向上と改善を図っていく所存である。

専任=本学常勤教員

兼任=非常勤講師

兼単=今回の職名分類になかったので他学科。他学部の教員は専任として記載。